

# 設 立 趣 旨 書

## 1 趣 旨

社会を想って行動すること（社会貢献活動）は、この社会と自分自身を豊かにする。私はそう確信しています。若者が元気で前向きな社会は、きっとやさしさと心の豊かさにあふれた社会ではないでしょうか。だからこそ私は、未来を担う若者に、この価値を届け繋ぎ続けていきたいと思っています。

きっかけは、2011年3月。私が大学生になろうとするまさにその時、東日本大震災に日本は揺れていました。その時、私が出会ったのが「社会貢献活動」でした。これまで自分のためにしか行動をしていなかった私が、初めて誰かの為に、社会の為に自ら行動したのです。その時の心境を思い出すと、「何もできないかもしれないけど、少しでも役に立ちたいから飛び込んだ」そんな感覚でした。10代の一人の若者が、頭からか体からかどこから湧き上がるのかわからないその衝動に身を任せ、がむしゃらに行動した結果、想像もしなかった苦悩や喜びを感じたとともに、「あなたも社会の一員である」ということを教えられたのです。

未曾有の大震災。それは戦後目覚ましい経済発展を遂げ、あらゆるコミュニケーションをIT化という利便性をもって突き進もうとしている私たちに、「人とのつながりの尊さ」を改めて思い出させてくれました。それは同時に、「ゆとり」「さとり」という形容をされがちな現代の若者たちの中に、「誰かのために」という願望があることを、私を含む彼ら自身が気づいた瞬間だったと、彼らと活動をする中で感じさせられました。スマートフォンで検索してもわからないこと。アプリではできないこと。それこそが「人づきあい」という経験です。これからの社会を担っていく彼ら若者が、次なる豊かさを創造していけるよう、今まさにその経験を後押ししていかなければならないと強く感じたのです。

ここにある調査結果があります。それは、岡山県は大学・短大の設置数が全国で3番目に多い地域であるということです。（平成27年度文部科学省「学校基本調査」より）言い方を変えれば、人口10万人当たりの大学数が1.4校であるということです。教育機関としてのシンクタンクが点在しており、このまちに学びを求めに全国から若者がやってきているのです。この事実は私に、若者の支援をしていく中での岡山の可能性の高さを表してくれたのは言うまでもありません。

そこで岡山を舞台に、これまで任意団体として、「一人でも多くの若者が、夢のきっかけと出会える社会を」を合言葉に、5年間活動をしてまいりました。若者と商店街を繋ぐ「まちなか大学祭」。社会貢献を仕事にしている大人と学生の交流イベント「社会と向き合う僕たちへ」。大学をめぐりながらのまち歩きとゴミ拾いを掛け合わせた「UNiversity CLEaning〜ユニクリ〜」。東北の復興を若者自身も楽しみながら応援する「福島×岡山 復興春フェス」。環境保護の観点を取り入れた祭り「エコ夏祭り」。様々なNPO団体と協働しての活動など、社会貢献の領域や分野を絞らず若者自身が自由に企画し、同世代の学生に向け、社会との接点を生み出してきました。

その5年間で強く感じたのは、冒頭で述べた彼らの願望とはやはり確かなものであるということ。しかし、現代を生きるデジタルネイティブである彼らにとって、情報はもちろん経験さえも、溢れているものであるということも痛感させられたのです。一時的な「楽しかった経験」だけで終わらせてはいけない、一人一人と深く向き合い、一人一人の人生を共に考えていく並走者である必要があると思いました。それこそが彼らに必要な真の「人づきあい」なのではと。そこで法人設立後の活動として、これまでの活動を整理・体系化し、市民との関わりをさらに増やすため、3つの支援の軸を設けたいと考えています。

社会との接点を持ちたいと思う若者がいる。

⇒①入口の支援「知る・考える」：合同活動紹介会や体験会など社会貢献との接点の場を広く開く。接点の場で得た気づきを行動に移したいと思う若者がいる。

⇒②活動の支援「行動する」：自律的に社会貢献活動をしたい若者の活動のコーディネートを行う。行動に移した結果、自身の「働く」につなげられないかと模索する若者がいる。

⇒③出口の支援「発展させる」：社会貢献で働く当事者との交流の場を設け、キャリア形成のサポートを行う。

この軸に沿って活動を展開していく上で、教育機関や地方公共団体、NPOや企業と連携し、共に若者の社会参画を支援していくことは必要不可欠です。しかしそこに任意団体としての限界を感じていました。また活動が営利目的ではなく、より多くの市民の方々の参画を促進していきたいこと、そして持続的な支援を進めていきたいことから、この度、特定非営利活動法人格を取得する意思決定をしました。若者が、社会を良くしていこうと行動に移せる地域社会。そしてその行動を、地域の大人たちがみんなで応援する。そんな「未来の地域を想うリレー」ができていく地域コミュニティを目指したい。その想いで、私たちは活動してまいります。

## 2 申請に至るまでの経過

平成24年4月 大学内での啓発活動を中心として、学生サークル「とり.OUS」発足

平成26年4月 拠点を大学から地域に広げるため、学生サークル「とり.OUS」を発展的に解散、任意団体「学生イベント企画団体 とり.OUS」として再スタート

平成29年1月 代表の大学卒業を機として支援者を募り、法人設立の意思確認

平成29年3月 設立総会開催

平成 29年 3月 12日

特定非営利活動法人 若者応援コミュニティとりのす

設立代表者 岡山県岡山市北区南方四丁目11番38号 111

井口 陽平